

多様性の意義

～複雑な社会に対する簡単な答え～

2025 年 1 月 19 日

M. Fujii

< 要旨 >

“多様性”の重要性が叫ばれるのは、なぜか。

複雑な社会を支えているものは、実は“多様性”である。

とにかく、企業や小さなコミュニティの中で、“多様性”は排除されたり、差別の対象となったりする。

社会維持のために老人層や社会的弱者を犠牲にする考え方は間違っているが、歴史の中で一定の説得力を得てきた。

老人層や社会的弱者を排除した場合、得られるパイが広がるとする、あまりにも簡単明瞭な答えがある。それゆえだが、その結果、差別は根強く残り続けてきた。

簡単明瞭な答えが心地よいからといって、社会選択を二元論で考えてよいものだろうか。第三の道はないか。

こと細かく、複雑な様相を全て考慮に入れながら、粘り強く考えていくほかない。

企業、国家、民族の観点で社会選択を考えてみよう。出来るだけ頑強な規範を作り、低エントロピー状態を保つ組織を作っていくことに腐心するか、高エントロピー状態へ移っていくスピードを緩やかにするか、それとも放っておくか？

どの社会状態を選択し志向するかは様々である。簡単明瞭な答えはない。

また、情報操作されたものが存在している状態の中で、事実と嘘を区別するのは非常に難しい。

情報操作され苦しむ側の人たちは、根気よく事実確認を積み上げていくほかないのである。

[目次]

I. ”多様性“ の意義 ～ 複雑な社会を支えるものについて

1. 若者層に阿る（おもねる）グループ
2. 老人層や社会的弱者をも大切に考慮するグループ

II. 複雑な社会と差別的な状況が続く要因

1. 老人層や社会的弱者に対する差別的な状況が続く要因
2. 社会選択の問題と二元論
3. 社会選択における二元論とループ
4. 社会選択における教訓

III. 複雑な社会とエントロピーについて

1. エントロピー増大の法則（熱力学第2法則）
2. 複雑な社会に対する見方

IV. 複雑な社会と情報操作について

1. 情報操作―― “真実が嘘のよう。 嘘が真実のよう。”
2. 情報操作の特性
3. 陰謀論について

I. ”多様性“ の意義

～ 複雑な社会を支えるものについて

1. 若者層に阿る（おもねる）グループ

「老人層や社会的弱者は邪魔者でしかない。社会の敵である老人層や社会的弱者を排除して新しい未来を創るのだ。」

⇒ 老人層や社会的弱者を支持し若者層に黙ってもらうか、若者層を支持し老人層や社会的弱者を排除するか、とする簡単明瞭な二元論で考えても良いのであろうか。

社会制度を甘く考え過ぎである。

2. 老人層や社会的弱者をも大切に考慮するグループ

< 複雑な社会の捉え方 >

東京都に居住している、ある若者の一日

「電車に乗って出勤し、仕事をして給与を貰い、スーパー・コンビニで弁当を買って帰宅し、自室で食べる。まるで一人だけで生活しているように思う。」

～交通手段維持のためには～

⇒ 移動に使う電車は、大勢の人が利用しなければ、運行されない。
(老人層や社会的弱者の多くが電車を使っているおかげである。)

⇒ 鉄道を支える様々な人々も必要である。

～会社から給与を貰うためには～

⇒ 会社も沢山の顧客がいなければ、給与を出せない。
(沢山の顧客には、多くの老人や社会的弱者がおり、そのおかげである。)

～食べるためには～

⇒ 食べるという生命維持活動にも、様々な人が必要である。

⇒ 弁当を作る人、スーパー・コンビニに運ぶ人など多くの人がいなければ、困る。
スーパー・コンビニ自体も、多方面の協力がなければ、存在できない。

⇒ 弁当を買う顧客が少なければ、そうしたシステムも止まることになる。

(弁当購入する老人層や社会的弱者のおかげで、スーパー・コンビニは助かっている。)

若者層にとって本来は命に係るグループなのに、老人層や社会的弱者はつい縁が

ないように思えてしまう。

自分は一人で努力して生きているのに、老人層や社会的弱者などの他者を助ける社会制度は、足を引っ張っているように、つい考えがちになる。

しかしながら、実際は逆である。

大勢の人たちが支えてくれる社会がないと、誰一人として生きていけない。

社会維持費用を負担する必要がある。

本当は、未来の社会を作っていく若い世代のために、また皆が安心して生活できる環境作りのために、社会維持費用負担が必要である。

社会保障や福祉のベースにある考えである。

⇒ 老人層や社会的弱者を排除すれば希望が生まれるなどとする考えは、自ら生きる場を破壊する浅はかな考えである。

⇒ 世の中は複雑である。 簡単明瞭なものではない。

複雑な社会を支えているものは、実は“多様性”である。

Ⅱ．複雑な社会と差別的な状況が続く要因

1. 老人層や社会的弱者に対する差別的な状況が続く要因

老人層や社会的弱者を邪魔者扱いしたい若者層に阿る（おもねる）グループがいることで、世代間の亀裂は深まり、不満は鬱積し、ついには憎しみを煽り立てる。

その一方、自分たちの権利は守られると妄信して、社会問題に積極的に関わろうとしない人たちが増えている。若者層から老人層にわたって、そうした社会に無関心な人たちが存在している。

社会維持のために老人層や社会的弱者を犠牲にする考え方は間違っているが、歴史の中で一定の説得力を得てきた。

⇒ 老人層や社会的弱者を排除した場合、得られるパイが広がるとする、あまりにも簡単明瞭な答えがある。それゆえだが、その結果、差別は根強く残り続けてきた。

2. 社会選択の問題と二元論

社会選択の問題がある。

ここで、次の3つの例を考えてみよう。

[例 1] ハラスメント問題

ハラスメントする側は絶対的に悪いので、ハラスメントする人たちを排除すれば事足りるというのは、正しいであろうか。排除しても、今度は異なる人たちが違ったかたちでハラスメントするのは、なぜか。

[例 2] ごみ処理場建設問題

ごみ処理場は自分が居住する近所がないほうがよいという考えで、ごみ処理工場の建設を反対して、ごみ処理問題が解決するか。

[例 3] 原子力発電所問題

原子力発電所で地震があつたら近隣地域は危ないので、原子力発電所は全て稼働中止とすればよいという考えで、地域経済活性化やエネルギー問題は解決するか。

⇒ 簡単明瞭な答えが心地よいからといって、社会選択を二元論で考えて

よいものだろうか。第三の道はないか。

3. 社会選択における二元論とループ

老人層や社会的弱者を排除する考えを持つ人たちに対抗する次のひとつの考え方で、社会選択における二元論とそのループを考えてみよう。

「弱くて役に立たない奴が消え去ればよい。」と口にした人たちもやがて必ず老いてくる。

若い頃そうしたことを発言した人たちに、そうした発言の責任を率先して引き受けてもらう。

老人層や社会的弱者を犠牲にしろと言った人たちの発言のデータを保存し、その人たちの個人情報、社会的弱者排除に苦しめられた人々や老人層の人たちが閲覧する。

老人層や社会的弱者はいらないとする発言者が老いたとき、または弱ったときに、社会的弱者生存の権利を奪い、若い頃の発言責任を取ってもらうという方法はどうか。

この考えは、人類にとって真のこころ平和な均衡をもたらすと言えるか。

⇒ こうした“目には目を”の考えは、禍根を残し、殺人連鎖の火種になりかねない。これでは差別合戦である。

こうした“目には目を”の考えも簡単明瞭な考えであることに変わりがない。

⇒ 世界を変えるのに、簡単明瞭な答えをベースとする考え方は、危険である。

4. 社会選択における教訓

「簡単明瞭な答えは、おおよそ致命的な欠陥を含んでいるかもしれない。」

社会は複雑である。

こと細かく、複雑な様相を全て考慮に入れながら、粘り強く考えていくほ
かない。 簡単明瞭な答え、二元論的な思考では、社会問題は解決し
ないのである。

複雑な社会を支えているものは、実は“多様性”であることを強く認識
しなければならない。

Ⅲ. 複雑な社会とエントロピーについて

1. エントロピー増大の法則（熱力学第2法則）

原子や分子の世界から宇宙に至るまで、森羅万象で成立する法則

「物質もエネルギーも情報その他、どんどん拡散していく方向に事象は進む。」

例： 気体が一旦拡散して分子間相互作用が減少すれば、それらが自発的に集合して液体や固体になることは非常に難しい。

その意味で不可逆的である。

2. 複雑な社会に対する見方

熱力学第2法則は、エントロピーが増大していく方向に物事は進むことを示しており、これは動かすことのできない真理である。

その一方、私たち、そして国家や民族も活動や存続を維持するためには、低エントロピーの状態（持続的に活動できる組織を維持した状態、小さくまとまった状態）に保つことが必須であるのも事実である。

（1） 企業、国家の観点

企業で上司がある程度の権力を行使し部下に一方向に動いてもらい、企業理念が浸透しひとつにまとまるということがどうして困難かの理由は、エントロピー増大の法則に反しているからである。無理に推し進めようとすると、パワー・ハラスメントを生む。

国家における政策推進も抵抗勢力があり、なかなか思うように進まない。

企業や国家の標語というものは、それが標榜する点については、企業や国家に属する全ての人たちの意識を統一させ、社会を低エントロピーの状態（持続的に活動できる組織を維持した状態、小さくまとまった状態）にする手段であると考えられる。一部では、憲法や法律が作られ、法規範を形作っていった。

（2） 民族の観点

民族の観点からも言えることだが、多くの民族が古くから規範を持ち、それらの規範がその民族の行動を制約することで、民族としての独自性を保ってきた。一部は宗教となり、規範を形作っていった。

（3） 規範の形成

規範の一部は為政者のためのものかもしれないが、その国民や民族を守るという立場から何代にもわたって形成された規範も多くあるというのが事実である。

皆が平等である社会は、社会活動が低い状態でのみ実現可能である。社会活動が高くなると必然的にその平等は失われ、バラバラになり、エントロピーは増大する。

所得格差も必然的に拡大する。

自由が拡大され、社会活動が活発化するほど、社会内部のエントロピーは増大して、排出しきれないエントロピーが社会内部に蓄積していく。自由と平等の両立は本質的に難しい。

⇒ 企業、国家、民族の観点で、出来るだけ頑強な規範を作り、低エントロピー状態を保つ組織を作っていくことに腐心するか、高エントロピー状態へ移っていくスピードを緩やかにするか、それとも放っておくか？

どの社会状態を選択し志向するかは様々である。簡単明瞭な答えはない。

IV. 複雑な社会と情報操作について

複雑な社会を簡単に解決しようとする勢力が、しばしば排除したい相手や反対勢力の人たちに対して、陰謀論などの情報操作で排除しようとする。

1. 情報操作――“真実が嘘のよう。 嘘が真実のよう。”

「事実とは異なる嘘のニュースが出回っている。 否定すればますます思うつぼ。 黙っていれば嘘だけど認めたことになる。 これは困る。 何とかしたい。」

2. 情報操作の特性

「否定すると真実味が増す。 これは困る。 何とかしたい。」

「嘘を信じ込んでいる人たち、嘘を真実と思っている人たちを説得することは、とても難しい。」

3. 陰謀論について

「嘘を真実だと信じ込ませるような情報操作のひとつの手法としての“陰謀論”、企業や国家で陰の組織が暗躍しているとする“陰謀論”というのは、何より思考し続けることへの拒否である。 社会の複雑さを拒否すること、複雑な問題への単純な答えである。」

⇒ 簡単明瞭な答えは、おおよそ致命的な欠陥を含んでいるかもしれない。

情報操作されたものが存在している状態の中で、事実と嘘を区別するのは非常に難しい。

情報操作され苦しむ側の人たちは、根気よく事実確認を積み上げていくほかないのである。

以上